

令和5年度 多職種連携のための基礎講座 終了後アンケートまとめ

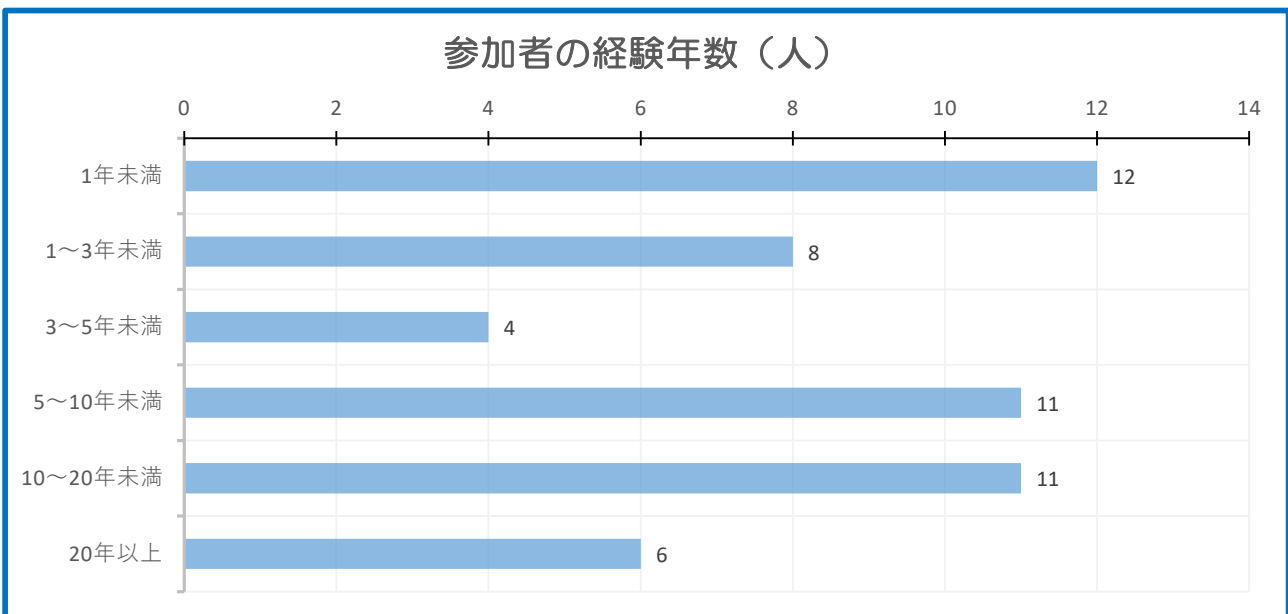
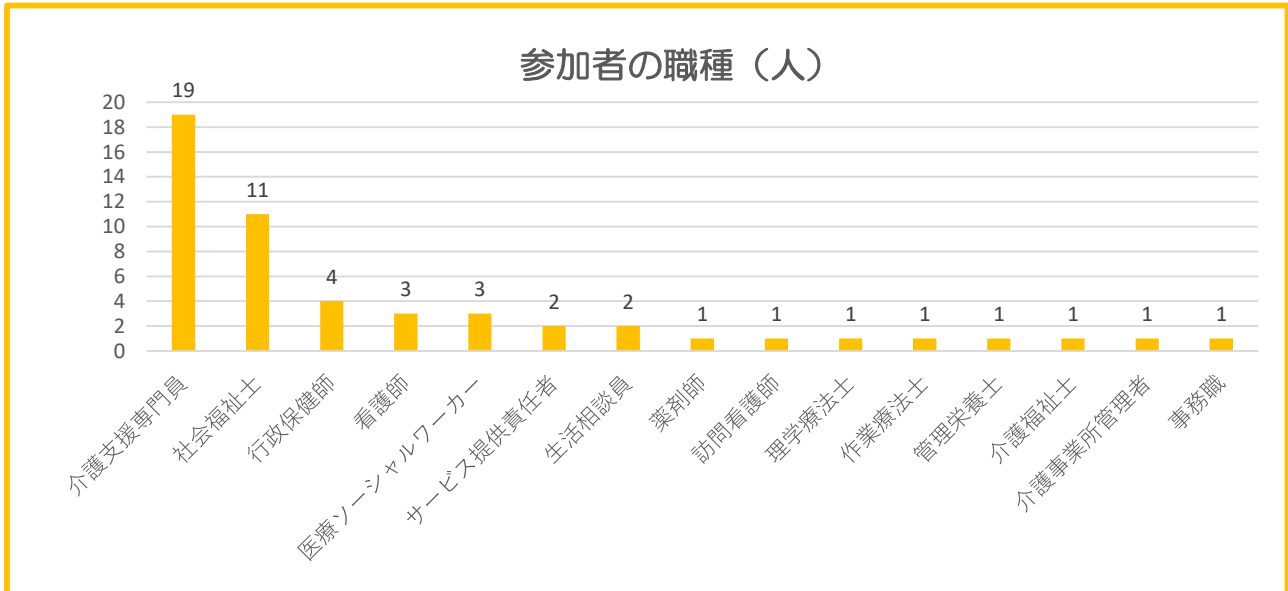
開催日時 令和5年10月 4日（水） 13：30～16：35

令和5年10月19日（木） 13：30～15：30

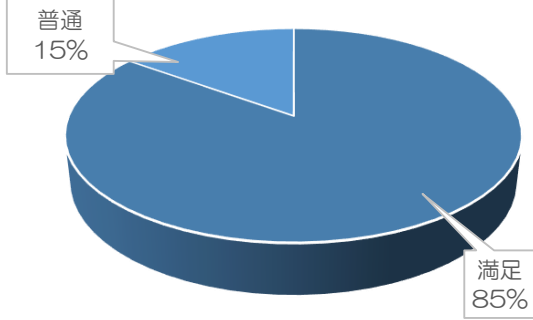
令和5年12月13日（水） 13：30～16：40

会 場 甲府市総合市民会館 3階大会議室

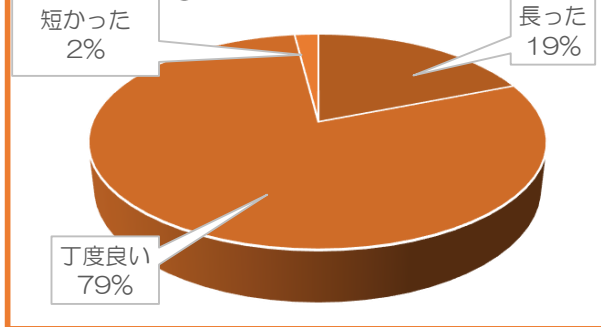
参加者 医療・介護の関係者 69名 アンケート回答者 52名 回答率75%



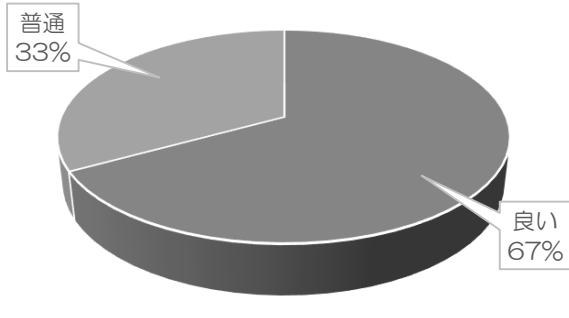
問①今回の講座の満足度について



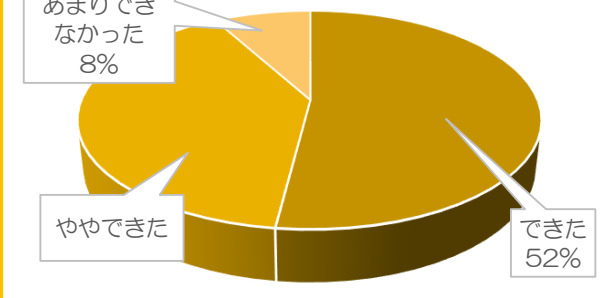
問②講座の時間設定について



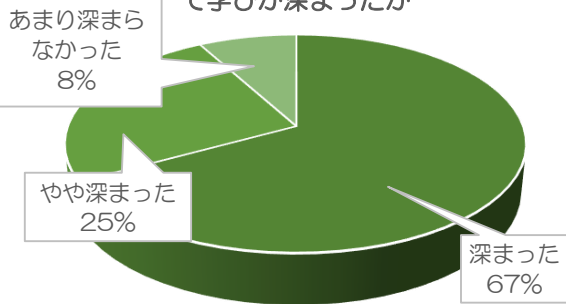
問③受講環境・受講方法について



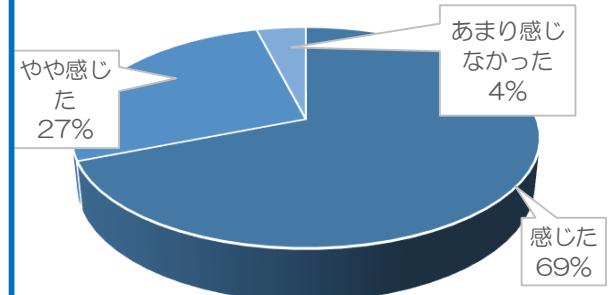
問④受講前に感じていた課題や学びたいことを解決できたか



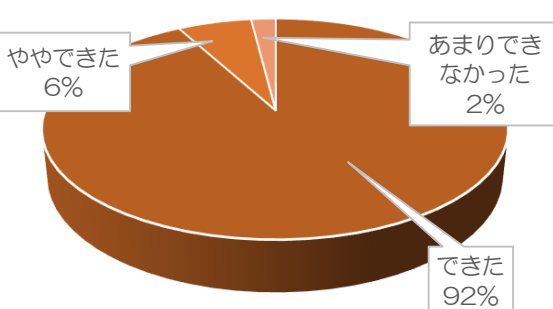
問⑤在宅療養における多職種連携について学びが深まったか



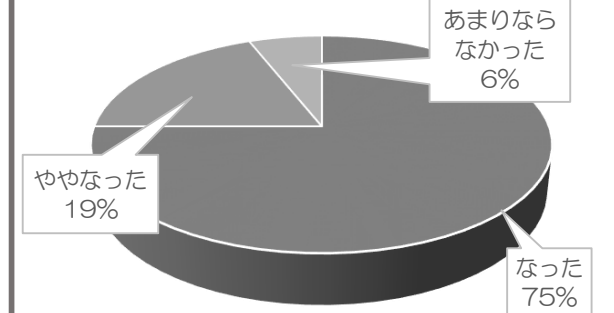
問⑥専門性を活かした多職種との連携ができると感じたか



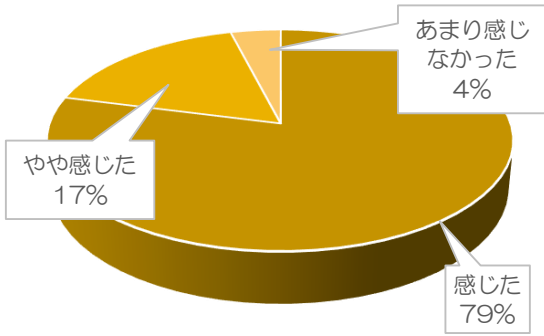
問⑦多職種と連携しながら支援を行う必要性が理解できたか



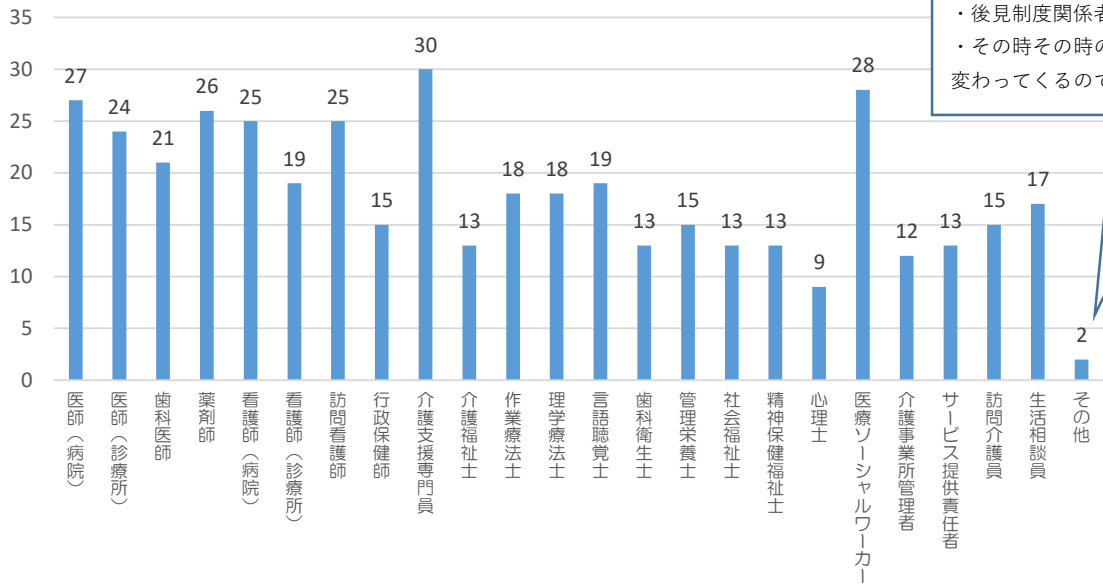
問⑧互いの業務や役割について理解する機会となったか



問⑩受講内容を踏まえ、今後の業務に活かすことができると感じたか



問⑪今後より連携を深めていきたい職種（人）



・後見制度関係者。
・その時その時の状況により変わってくるので全て必要。

⑩問9で「①感じる」「②やや感じる」と回答した方はどのように活かすことができるか

【連携】

- それぞれの強みをいかし連携を図っていく。
- 多職種連携の必要性は重々理解しているつもりだが「どのように連携していくか」という課題に対して「どのようなツールを使うか」ということに対してどうするかヒントを得たと思う。
- 支援において他職種と密に連携しようと思えた。
- 顔の見える関係作り、コミュニケーションを積極的にとっていく。
- その時に連携すべき場所が理解できた。
- 多職種連携時の連絡方法やタイミングなど。
- 連携のポイントがわかった。
- 小さな事でも他職種へ伝える事で連携が図れ、利用者さんにとって良い支援につながる事が理解できた。
- 多職種連携で他のグループから出た情報ツールは利用したいと思った。まだまだ事例が少ないので皆さんの話は参考になった。
- 多職種と対面で研修、グループワークをできた事で、今後の連携の質が高まると思う。
- 多職種との連携の大切さ感じながら支援するようにしていく。
- 他職種が普段困っていることがどのようなことかを知る機会になった。うまく連携するために自分の職種が求められている役割をより意識しながら立ち回れるよう、今回の研修によって気づきを得られたと思う。
- 連携を深める手技、ポイント、注意点などが明確になったため、上記点を意識しながら今後の業務を行うことができると感じた。
- 日頃からの関係づくり、連携を積極的に図れそう。
- 実際に講義の場でお会いできた方々との縁が連携につながると感じた。
- 利用者が安心して自宅で過ごしていけるために連携をすること、自分がしたい連携ではなく、自分の役割や立ち位置を理解し、相手から求められる対応を行うこと。
- 日頃からの多職種との連携がとても大事という事が改めてわかったため、これからは遠慮なく些細なことでも気づきがあった時には報告し、関係者で共有していきたくと思う。
- グループワークの中で、本人や家族の社会的背景を知ることも多職種連携を行っていく上でとても大事なことだとわかった。病院では身体的な情報が多くなってしまうため、本人がどのような人か、家族との関係性等、新規で関わってもらう際には今までよりも情報収集していきたいと感じた。
- 顔の見える関係が相互の理解につながる。職種間の隔たりができるだけ無いようにしたい。

【多職種の視点】

- 他職種の考え方を理解できた。
- いろいろな職種からの意見が聞けたので様々な立場の考えが理解できた。
- 多職種連携で大切なものことや、重要なことを学ぶことを共有することで、意識して他の職種と情報交換する事に活かそうだと思う。
- 他職種の役割を改めて学ぶことができた。
- 職種それぞれが見ている視点や、信念みたいなものが違うので、それを踏まえた上でのやり取りが必要だと知ることができた。
- 本人が望む生き方を全うするためには、あらゆる情報を収集し多職種連携は必須となる。
- 事例等を踏まえ、各職種の視点がより理解できたため。

【役割分担】

- 方向性の統一。役割を明確に。
- 役割分担等の必要性を改めて活かしていこうと思った。
- 職場内でも、他職種の役割を意識して研修や事例検討など院内で開きたいと思う。

【専門性】

- ケアマネだけでは解決できない課題を一緒に共有できる、相談ができることを深められた。
- 多種職がケアマネに望むことの本を聞く機会になった。利用者本位、家族支援の視点でもケアマネからの情報発信の必要性や関係者と顔の見える関係づくりの要として役割を図っていきたくと思った。
- 他職種の方と話をする中で、訪問介護としてどのように考えて対応していけばよいのか自事業所のスタッフにも伝えていきたい。

【その他】

- 本人中心、本人の意思を尊重した伴走支援が大事。地域を巻き込んだ支援を引き続き意識していく。
- 利用者のためを思い、それぞれの知識・経験を十二分に発揮できるようにサポートしていきたい。

- ・学んだことを支援に活かしていきたいと思う。
- ・いつも通り業務を遂行する。
- ・壁は自分から作らない。
- ・経験が浅い分、先輩方の支援方法を学ぶことができたため実践に活かす。
- ・電話でのやりとりが多いため、電話の印象を良くすることが大切であること。利用者、家族への情熱があると連携も深まると感じた。
- ・どのようにというのは難しいが、行動してみようと思えた。
- ・医療に関してあまり知識がなかったが、必要限度の知識は必要だと感じた。身に着けて今後も連携を取れていけたらと思う。
- ・今まで、何故この情報が必要なのか、深く考える事がなかった。
- ・訪問について、講座を受ける前と今では考え方が明らかに変わった。見識が深まった。
- ・第1回目みの参加となったため、具体的な内容には触れていない為。

⑩問9で「③あまり感じない」「④感じない」と回答した方の理由

- ・連携について具体的な場面あるいはテーマを定めたくうえでディスカッションすることが必要ではないかと思った。
- ・グループワークで学びになることがなかった。

⑫今後の基礎講座に関して、どのような講座があるとよいか

- ・事業者のメンタルケアの研修。
- ・ICT関連。
- ・摂食、嚥下について。
- ・ACP。
- ・身寄りのない方、親族との関係性が希薄な方に関わる入退院時の連携について。
- ・本人、家族の多様化に伴う支援の難しさについて。
- ・困難事例の事例検討会。
- ・それぞれの役割や職種の特徴がわかるようなプレゼンを兼ねた事例紹介など。
- ・各専門の仕事がイメージしづらいところがある。略語があるとついていけない。サポートがあるような講座があればよいと思った。

⑬その他、ご意見・ご感想 等（原文ママ）

- ・専門職ごとの視点の違いなどに気がつくことができた。
- ・それぞれの専門職の意見を共有でき、学びにつながりました。ありがとうございました。
- ・今回、とても学びが多かったので、多職種でのこのような講座やグループワークをお願いしたい。
- ・来年も同じ内容でも参加したいと思う。
- ・今回参加して特に3日目のグループワークでの実践レポートの発表時の意見交換がとても有意義な時間でした。日頃から、こんな風に思いのあるケアマネさんと一緒に支援が出来たら業務がスムーズに行えるのに…と思いました。今回は本当にありがとうございました。今回の皆さんがいることでとても心強いです。頑張れそうです。
- ・実践レポートを事前に送っていただいたので、わからないところ（医療用語など）をあらかじめ調べることができてよかったです。専門職の方といろいろ話をする中で新たな気づきもありました。何より知り合いになることができてよかったです。アンケートの小さな疑問にも丁寧に答えていただきありがとうございました。
- ・良い研修の機会を頂きまして有難う御座いました。甲府市の活動が県内でも広がっていくと良いと思いました。担当の皆様講師の先生方大変お疲れ様でした。
- ・本日は関係者の皆様お疲れ様でした。
- ・松田さんの印象がとてもよかったです。お世話になりました。また機会がありましたら、よろしく願い申し上げます。
- ・発表者でも書記でもないのにならぬ前に出てしまいすみませんでした。

【運営に関する内容】

- ・どの研修でも以前から感じており多くの方も同様の意見があるが、もし可能なら、参加者すべての人が集中し楽しめるよう書記を主催者側で行ってほしい。
- ・実際の多職種連携が実践に活かせるように、地域ごとのグループとした方が、顔の見える関係性ができると思う。
- ・経験年数がバラバラ過ぎて、グループワークが大変だった。経験年数を3年以上など、ある程度経験して他職種との連携を経験した人にしぼった方が良かったのではないだろうか